

大館能代空港

実現に向けてラストスパート

大館能代空港早期実現総決起大会が十月一日、鷹巣体育館で開かれました。大会には県北を中心に県内外から約二千五百人が参加し、空港の早期実現に向けて氣勢を上げました。来年度からスタートする国の第六次空港整備五カ年計画への組み入れを目指し、運動も大詰を迎えています。

今が正念場

当市をはじめとした県北地域は、全国でも数少ない高速交通体系後進地域となっています。



10月1日に開催された総決起大会

そのため、昭和六十二年八月に県北の市町村で秋田県北空港建設促進期成同盟会を設立し、空港の早期実現に向けて、内閣総理大臣や運輸大臣への陳情、街頭署名など、数々の運動を展開してきました。その成果として、自民党航空対策特別委員会の一行が十月一日に、大野運輸大臣が六日に鷹巣町大野台の空港建設候補地を視察しました。

しかし、来年度から開始される国の第六次空港整備五カ年計画に組み入れを希望している新設空港は、大館能代空港のほか、静岡空港(静岡県)、びわこ空港(滋賀県)、神戸空港(兵庫県)、中部新国際空港(愛知県)など十一カ所。そのうち数カ所しか組み入れられ

ないといわれるほど大変厳しい状況です。

第六次空港整備計画を目前にし、正に正念場を迎えています。地域四十万住民の非願である大館能代空港実現のため、住民の総意を結集し、更に運動を推し進めて行くことが必要です。

空港構想と地域の期待

大館能代空港は、秋田空港に次ぐ県内二番目の空港(滑走路

二千ど)として、鷹巣町大野台中屋敷付近への建設を要望しています。現在、県を中心に、平成三年度から開始される国の第六次空港整備五カ年計画に組み入れられるよう、気象調査などが進められています。

この大館能代空港が実現すれば、大館市から東京へは約二時間五十五分、名古屋へは約三十分、大阪へは約三時間、札幌へは約二時間四十五分で行くことができるようになります。主要都市がぐんと身近になります。また、特に農林水産業の市場拡大や工業のハイテク化、企業誘致の促進などには飛躍の道が開けます。それに伴う雇用拡大も期待されます。更にリゾート開発における観光発展の可能性など、無限の広がりを秘めたものになると予想されます。

大館能代空港建設促進運動の経緯

(平成2年5月まで)

- 昭和62年8月・秋田県北空港建設促進期成同盟会設立総会
- 昭和63年2月・秋田県知事へ陳情
- 11月・先進地視察(山形県庄内空港)
- 12月・公募により建設促進PR用シンボルマーク、キャッチフレーズ決定
- 平成元年4月・建設候補地が「鷹巣町大野台中屋敷付近」に決定
- ・運輸大臣へ陳情
- 7月・運輸大臣へ陳情
- 11月・運輸大臣へ陳情
- ・総決起集会
- 12月・秋田県北空港建設期成大館地域推進会議設立総会
- ・運輸大臣へ陳情
- 平成2年1月・街頭署名運動
- 3月・運輸大臣へ陳情(2回)
- 4月・県北空港の名称が「大館能代空港」に決定
- ・内閣総理大臣へ陳情
- ・街頭署名運動
- ・大館能代空港早期実現大館地域総決起集会

市長メモ



No.41

継続は力

五月五日の子供の日から始まり、十月十日の体育の日に終わった「ラジオ体操会」に参加されました市民の皆さん、本当にご苦労様でした。

「早起きは三文の得」とか「継続は力なり」ということわざがありますが、まさにそのとおりではないでしょうか。

人間の脳は、眠りからさめてから完全な働きをするまでに最低でも四十分必要だそうですから、早起きをしてラジオ体操会に参加することは、身体にはもちろん脳の働きにもいいという事になります。それに居住意識とコミュニケーションも与えてくれます。更に素晴らしいことは、継続の意志が付加することです。何事もそうですが「続ける」ということは大変な勇気と努力が必要です。勇気も努力も買うことも貸りすることもできません。

自らを磨き鍛えることこそ人生のすべてでありますし、求め、求められるものです。

市長メモ